

講義科目名称：音楽

授業コード：

授業科目の区分等：基礎教育科目 教養

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
半期	1 年	2	選択
担当教員			
船越 理恵			
G (現代ビジネス学科)	L (基礎科目)	HC (人間と文化)	101 (基礎・入門科目)

授業のねらい (概要)	リベラルアーツ教育、STEAM教育の一環として、音楽を教養として学ぶ。古代より人間社会と密接に結びついてきた音楽は、その時代その時代における社会の価値観や情勢のもと、多様な役割と機能を担い、進化し続けてきた。本講義を通じては、音楽が本質的に人間の生を豊かにする存在であることをみつめなおすことを通して、これからを生きる個人の人生の力となり、未来の社会の糧となる音楽との関わり方についての知見を広げる。		
授業計画	第1回	オリエンテーション 授業の目的、進め方、評価方法、履修上の注意を確認する。 ----- 予習 (時間) シラバスに目を通し、この授業の履修を通じてどのような学びを得たいのかについて考えをまとめる (90)。 復習 (時間) オリエンテーション内容を振り返り、15回の授業の進行イメージを明確する。(90)	
	第2回	音楽と自分 これまでの人生をふりかえり自分の生活と音楽との関わりについてまとめた「音楽プロフィール」を作成し、発表する。 ----- 予習 (時間) 音楽プロフィールの作成にあたって、これまでの生活を振り返り、どのような音楽といかに関わってきたのかを振り返り、印象的なエピソードを書きだしておく。(90) 復習 (時間) 授業内で作成した「音楽プロフィール」の内容を鑑みながら、現在の音楽的趣味嗜好は、誰の影響によるものなのかについて考察する。(90)	
	第3回	日常生活における音楽の位置づけ お互いの「音楽プロフィール」をもとに、日々の生活において音楽がどのように位置づけられているのかを整理する。 ----- 予習 (時間) 日常生活を振り返り、音楽を聴くタイミングや目的についてまとめる。(90) 復習 (時間) 他者の「音楽プロフィール」の内容を振り返り、自分の価値観にはなかった音楽の意味について考察する。(90)	
	第4回	流行りの音楽 戦後から現在にいたるまでの流行りの音楽を概観し、時代ごとに異なる流行のスタイルを理解する。 ----- 予習 (時間) 戦後から現在における期間において、各自元号や年代を特定し、どのような音楽が流行したのかを調べる。(90) 復習 (時間) 戦後以降、日本の音楽シーンにおける変遷を振り返り、音楽の流行が何を物語っているのかについて、考えたことや気づいたことを文章にまとめる。(90)	
	第5回	教養としての音楽① 歴史やジャンル、演奏形態の違いなどから、音楽における多様な側面を捉える。 ----- 予習 (時間) 音楽のジャンルや演奏形態がどのようにすみ分けられているのかについて、下調べをする。(90) 復習 (時間) 多種多様な音楽の中から、自分にとって親しみのある音楽とそうではない音楽について考え、そう感じる理由について考察する。(90)	
	第6回	教養としての音楽② 様々な時代・文化を象徴する楽曲に触れ、名曲とよばれる作品の共通性を探る。 ----- 予習 (時間) 小中学校の音楽の授業でならったことのある西洋音楽作品を振り返り、どのような曲が印象にのこっているのかについて考えをまとめる (90) 復習 (時間) 授業で紹介された名曲の中から一作品を再度鑑賞し、自分が感じたことを文章にまとめる。(90)	
	第7回	教養としての音楽③ 世界的に著名な作曲家について知識を深める。 ----- 予習 (時間) 小中学校の音楽の授業でならったことのある作曲家について振り返り、印象にのこっている人物について考えをまとめる。(90) 復習 (時間) 授業内で取り上げた作曲家の中から興味を感じた人物を一人を選び、書籍やインターネットを活用し、より深く調べる。(90)	
	第8回	日本の音楽 音楽の教科書を紐解きながら、音楽を介して日本の文化を感じとる。 ----- 予習 (時間) 「日本の音楽」といって思い浮かんだ曲名を可能な限り挙げ、挙げた曲に共通する要素について考える。(90) 復習 (時間) 授業内で取り上げた日本の音楽の中から、特に後世に残していきたいと感じる作品を挙げ、その理由を考察する。(90)	
	第9回	世界の音楽 子守歌を聴き比べながら、国や地域によって旋律や和声がどのように異なるのかを知る。 ----- 予習 (時間) インターネットや書籍を活用し、日本以外の国や地域で歌われている子守歌について	

	第10回 て、最低3曲以上、調べる。(90) 復習(時間) 授業内で取り上げた子守歌を再度鑑賞し、国や地域によってどのように印象が異なるのかについて考察する。(90) 時代を伝える音楽 戦争にまつわる音楽風景に着目し、社会と音楽のつながりを考える。 第11回 予習(時間) 書籍やインターネットを活用し、戦争にまつわる音楽作品にはどのようなものがあるのか、最低3作品以上を調べる。 復習(時間) 授業内で取り上げられた音楽作品を再度鑑賞し、言葉と音楽には、どのようなコミュニケーションの性質の異なりがあるのかについて考察する。 心をつなげる音楽 近年の震災復興に関連した音楽ボランティアの活動に注目し、社会における音楽の力について考える。 第12回 予習(時間) 震災復興に関連した音楽ボランティアの活動事例について調べる(90)。 復習(時間) 音楽ボランティア 「コト」としての音楽 “musicking”の概念を理解し、音楽とのつながりを捉え直す。 第13回 予習(時間) “musicking”の意味を調べる。可能であれば参考図書に目を通しておく。(90) 復習(時間) 自分自身の音楽との関わりを振り返り、どのような“musicking”が捉えられるのかについて考察する。(90) 音楽の力を考える① 癒しや娯楽としての音楽の側面を取り上げ、社会に対する音楽の影響について注目する。 第14回 予習(時間) 癒しや娯楽としての音楽作品、あるいは音楽シーンとして抱くイメージについてまとめる。(90) 復習(時間) 日常を振り返り、自分自身が娯楽や癒しを見出している音楽作品や音楽との関わりについて考察する。(90) 音楽の力を考える② コミュニケーションやアートとしての音楽の側面を取り上げ、社会に対する音楽の影響について注目する。 第15回 予習(時間) コミュニケーションとして機能している音楽とはどのような音楽なのか、そのイメージについてまとめる。(90) 復習(時間) 日常を振り返り、自分自身がコミュニケーションの手段として利用している音楽作品や音楽との関わりについて考察する。(90) まとめ 授業での学びを振り返りながら、これからの時代に求められる音楽の社会的役割や機能についての視座を育てる。 予習(時間) これまでの授業で学んできた、音楽と社会における多様な関係について、重要と思われるポイントを整理する(90)。 復習(時間) 音楽と関わることに對して、自分自身はどのような価値を見出しているのか、考察する。(90)
授業を通して身に付けることができる能力(DP)	本授業ではDPに記載される「学び続ける姿勢」を養う。
到達目標	・多様な人々とのコミュニケーションを広げる音楽に関する教養を身につける。 ・自分の生活・人生にとって心地よい音楽とのかかわり方を知る。 ・社会に役立つ音楽のカタチ・あり方についての見解を育てる。
課題や小テスト等のフィードバックの方法	全体に共通する課題点や注意点については授業内に解説する。
履修上の注意	履修者は各自、ノートおよび配布物を管理するファイルを用意する。 鑑賞活動や表現の工夫、授業内に実施する個人およびグループのワークに積極的に参加すること。
成績評価の方法・基準	毎授業時に回収するコメントシートの内容30%、学修意欲30%、最終課題40%
教科書	教科書は使用せず、適宜、授業内容に添った補足プリントを配布する。
参考書・教材	クリストファー・スモール『ミュージッキングー音楽は“行為”である』(2012) 水声社
備考	履修者の人数や状況等によって授業計画を見直し、学生に告知した上で、一部を変更したり順番を入れ替える可能性がある。
教員との連絡方法	メールを採用。連絡先アドレスは授業内にて周知する。